

Ma chérie

10月はピンクリボン月間

検診・セルフチェックで「乳がん」の早期発見と治療を

～「乳がん」体験者の声から～

女性なら誰でもかかりうる病・乳がん。最近では著名人の乳がん発症や闘病の様子を目にする機会も多く、関心はより高まっています。でも、心のどこかで「私はきっと大丈夫」と思っていないですか。今回は、昨年末に乳がん手術を受け、治療を続けながら仕事と子育てを両立させている盛岡市在住の星川さんにお話を聞きました。自分自身の体と向き合う大切さを考えてみましょう。

取材協力/アイリスの会



アイリスの会とは…

乳がん患者同士、悩みや愚痴をこぼす場、乳がんの正しい知識と確かな情報を得る場になっています。

また、抗がん剤で頭髪が抜けてしまうがん患者のために、コットン帽子を制作し、寄贈しています。すべて会員の手編みで、コットン糸（綿100%）は活動費や寄付によるもの。現在、帽子用のコットン糸の寄付を募っています。

〈茶話会開催中〉

- 日時/毎月第1月曜、10時～15時
- 場所/アイーナ5階
- ※会員以外の人でも参加可

■アイリスの会

http://www.iwate-iris.jp/

Eメール kyoko_692@yahoo.co.jp

「まさか自分が…」早期発見から手術・治療へ。再発を恐れず、これからもポジティブに!

星川奈津子さん(37歳)

アイリスの会会員



「がん告知時は落ち込みましたが、病気を通じて友達が増えたりとうれしいことも。今はプラス思考で生活しています」

「乳がんに気付いたきっかけは？」

「私は保険代理店に勤めていることもあり、日頃から意識して20代・30代の人たちにもがん検診を受けるよう勧めていました。そこで、『まずは自分が検診を受けなさい』と、2014年にがん検診を初受診し、その時は異常なし。翌年は仕事の忙しさや検診代がもつたいないという気持ちから受診しませんでした。しかし昨年9月に思いがけず宝くじで数千円が当たり、ふと『これはがん検診を受けなさいってことかな?』と思いついて受診しました。その時も異常なしだったのですが、翌月10月、右胸につつぱりやひきつりを感じて、再度クリニックへ。9月の検診の時点では自覚症状もなかったのに軽く考えていました。再検査を受けたところ白い影が映っていて、さらに細胞診で詳しく調べてみると、結果はグレード2。その翌月もさらに検査を重ね、はつきりと乳がんの告知を受けたのが昨年末のことでした」

「乳がんであることを告げられた時の気持ちや周りの反応は？」

「検査を重ねるにつれ、告知されることを半分覚悟していたので受け止めることができましたが、家族にはなかなか言い出せませんでした。特に中2と小6の子どもたちにはショックを与えたくなくて、『おっぱいにしこりがあったから手術してくるね』とだけ告げました。でも、手術後、抗がん剤、放射線、ホルモン治療が始まると、いよいよ副作用から髪が抜けてきて…。『子どもたちにも言わなきゃ』と思い、その頃になってようやく伝えました。幸い、会社や周囲の人からも理解を得られ、ポジティブに仕事も家事も続行してきました。働いていた方が前向きになれますしね。」

「乳がん経験者としてマ・シェリ読者に伝えたいこと」

「がんと診断される患者数は、毎年国

内で100万人、今や2人に1人はがんになるといわれる時代です。若い人は検診に行っていない人が多いようですが、『自分ならならぬだろう』と思わずに、日頃からセルフチェックや検診の受診を心がけてほしいですね。それと、エコーだけ、あるいはマンモグラフィーだけでは発見されにくいこともあるので、両方受けることをおすすめします。もしがんが発見された場合でも、今は最新の医療技術により治療法も発達してきていますし、『がん対策基本法』により、学校や職場、社会全体でがんに対する意識が変わってきています。『アイリスの会』のように乳がん経験者が集まる情報交換の場もあるので心強いです。乳がんは早期発見・早期治療で治る病気といわれています。がん検診はぜひ積極的に受けてほしいですね」